NO.23
2000年1月1日号

天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

やませみ

山は
鳥になって
空から眺め
虫になって地をはい
花になって風に吹かれ
魚になって水に
流れる

それらとわたしも
つながり合って
人と人とも
つながりあって いつしか
それは玉となり
心の中で光りだす

もっとみがこう知恵の玉を
そうして始めよう
あたらしい年を
新しい里山づくりを

編集室から

以前、インドを旅しました。その時印象的だったのは、人と動物の共生のあり方です。聖なる動物である牛は道端で昼寝し、水牛は人々と共に水浴びをしている。窓からは、家々の屋根を飛び歩く猿の群が見え、公園ではリスが木々の間をスルスルと渡り歩いている。一方、重い荷を背負った馬が、鞭打たれながらヨロヨロと歩いている。カトマンズの町では、やせ細った犬が豚と争って人糞を食べていました。

日本とインドでは事情が違うので、一概に比較する事はできませんが、ただインドではそれぞれの動物に、それぞれの人（？）生を感じた事です。人と動物に、その生命の重みの中で必死に生き抜こうとしている同士のような連帯感が存在していました。そこには確かに人と動物の生き生きとした関係が感じられたのです。日本でも日本なりの、人と動物の生き生きとした関係を築いていけたらいいなと思います。

あ

飯能市商工観光課を訪ねて

十一月十七日、市の商工観光課を訪れ、県民休養地推進協議会の早期実現を要望してきました。

昨年度末につづき二度目の訪問でしたが、前回同様この協議会には全く手が着けられておらず、今後の具体策も聞けませんでした。

この休養地＝自然公園計画は、現在、地元である飯能市による協議会の開催と計画に対する意見や要望を県に提出することで、次のステップに進んでゆく段階にある。これに積極的な取り組みを示していかないと、飯能市はこの計画を望んでいないと判断されることにもなり、計画自体一歩も前に進むことができない事になってしまう。私たちは、繰り返し早期の実現を求めた。そして今後の具体策を、文書にて提示していただけることになった。この内容に期待してゆきたい。

また、飯能市観光ビジョン策定調査報告書と中央公園基本設計報告書の抜粋コピーをいただいてきた。これらの計画は県民休養地基本構想も含めて、市のマスタープランの大規模団地開発＝十二万人構想を核としている。これ自体経済不況、少子化、高齢化、そして住宅都市整備公団の解散と、団地開発からの撤退の中で、多くの市民が疑問と不安を持っているものである。この負の構想の根本的見直しにもなる、天覧山・多峯主山一帯の自然公園計画は、未来の明るい街づくりへの転換になり得るものと思う。

H.S

会員募集中！

天覧山・多峯主山周辺の自然を守りたいという目的に賛同して下さる方、どうか会員になって活動を支えて下さい。

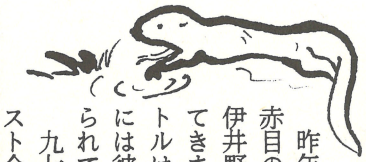
会員の申込み用紙、会報「やませみ」は、事務局や左記に置いてあります。

☆谷口眼科　☆銀河堂　☆カフェ・裏

やませみ NO.23

●発行／2000年1月1日
●編集・発行／
天覧山・多峯主山の自然を守る会
●事務局／
浅野正敏　埼玉県飯能市柳町 18－17
☎ 0429-74-1691
小船晶子　☎ 0429-72-4602
●編集局／鈴木弘子　☎ 0429-77-0141
●イラスト・レイアウト／石岡 真由海
●郵便振込口座／
天覧山・多峯主山の自然を守る会
00580－9－16342
●ホームページアドレス／
http://www03.u-page.so-net.ne.jp/yc4/akisato/index.html

動く 学ぶ そして守る



昨年の暮れに、三重県名張市にある赤目の森をゴルフ場から守った立役者、伊井野雄二さんから一冊の本が送られてきました。氏の著作による本のタイトルは「里山の伝道師」とあり、そこには彼らの活動記録と、夢や想いが綴られていました。

九七年に第十五回ナショナル・トラスト全国大会が三重県で開催された折、私は当地を訪れたことがあります。そこはいわゆる里山と呼ばれ、飯能の天覧山・多峯主山周辺の風景と非常に良く似た所でした。また、そこに生息する動植物の種類や生態もそっくりでしたので大変驚いたのを憶えています。

彼らは、大変ユニークな活動を展開していました。反対のための反対を避け、ゴルフ場に対抗する代替案を提案し、実行したのです。それは、環境保全型保養施設を自分達でつくり、それを自力で運営してゆく中で、里山の自然を守り、雇用を生み出し、地域づくりに活かそうというものでした。

私たちの天覧山・多峯主山の自然を守る運動も、九十五年に団地開発の申請が出されて以来あらゆる圧力にも屈せず、数々の手段を講じて開発変更を求め続けてきました。今年で六年目を迎えるに当たり、より積極的な提案型の運動へ向かうべき時期に来ていると考えています。

幸運にも守る会でお借りする事が出来た休耕田（東やつトラスト地）において、より実践的な里山保全への手がかりをつかもうとしています。これを基点として、散策道の整備、木道づくり、雑木の「萌芽更新」のための伐採とその利用、植林の間伐とその利用等々、市民のボランティアで楽しみながら関わってゆくべき仕事がたくさん考えられます。そうしたことは、当地に計画中の「飯能県民休養地」の下地づくりにもなってゆきます。

こうした、体を動かしての取り組みと、昨年からシリーズ化してきた「奥むさし環境講座」や、毎月の自然観察会（ふるさと散歩）といった、共に学ぶ視点とを併せ持つことによって、今後ますます活動の広がりが図られることと思われます。そうした中から、市民による自主的な環境保全のための具体的な提案がなされてゆくであろうと、二千年の新年を迎え、想いを巡らしています。

天覧山・多峯主山の自然を守る会
代表　浅野正敏

日よう日 ふるさと散歩

四季折々の山歩きにやつ田の作業も加わり、今年も月に一回続けてゆきます。どなたでも気軽にご参加下さい。

◇一月一日（土）
「初日を浴びて山歩き」の巻
◆集合　能仁寺山門朝六時、解散八時

二月十三日（日）
「待ち遠しいな春の田んぼ」の巻
東やつの田んぼの田おこし。桜の花の咲くころにレンゲを植える予定。

◇三月十二日（日）
「春（は）るよ来い！鳥よ来い！」の巻
春まだ浅いこのこの時期は、バードウォッチングに最適です。

◆集合　二月三月　能仁寺山門九時半
◆参加費　保険料（任意）百円
◆持ち物　お弁当（一月は不要）
◆共催　蠅生態系保護協会飯能名栗支部・はんのう景観トラスト

天覧山・多峯主山の自然を守る会 1999年活動記録

1月1日◇ふるさと散歩「朝日を浴びて初歩きの巻」
　◇会報「やませみ」19号発行
15日◇第1回奥むさし環境講座「奥むさしの魅力ある自然」を開催
21日◇埼玉県自然保護課にて「飯能県民休養地構想」について4回目の懇談、及びオオタカ調査報告書を提出。
2月14日◇ふるさと散歩「はーるよこい！の巻」及び東やつトラスト地での軽作業（水路とあぜ道の手入れ）
3月4日◇飯能市商工観光課にて「飯能県民休養地構想」について懇談
14日◇ふるさと散歩「豊かな里山・みんなの山の巻」
20日◇会報「やませみ」20号発行
　◇守る会のホームページが開かれる
　◇やませみ号外発行。県議選埼玉三区の立候補予定者三名への公開質問状に対する回答
28日◇上記三名による公開討論会開催
4月11日◇ふるさと散歩「里山・お花見・よもぎつみの巻」
25日◇総会及び第2回奥むさし環境講座「正しく知ろう！環境ホルモン」を開催
5月9日◇第2回 里山まつり開催
13日◇ふるさと散歩「夏鳥の声を聞きながら…の巻」
6月20日◇会報「やませみ」21号発行
26.27日と7月3.4日◇ホタル観察会「ほーほーほーたる来いの巻」
7月25日◇嵐山町オオムラサキの森・育てる会の活動を視察
8月8日◇ふるさと散歩「八月、早起き、山歩きの巻」
18日◇埼玉県自然保護課による「飯能県民休養地基本構想調査報告書（中間報告）」を公開条例に基づいて入手する
26日◇天覧山・多峯主山付近の自然保護施策推進に関する要望を埼玉県知事に提出。及び「飯能県民休養地構想」について埼玉県自然保護課と5回目の懇談
9月12日◇ふるさと散歩・やつ田トラスト保全作業「やつ田の生き物徹底調査の巻」
10月3日◇会報「やませみ」22号発行
10日◇ふるさと散歩・やつ田トラスト保全作業「やつ田でどろんこ仕事の巻」（溜池づくり）
31日◇第3回奥むさし環境講座「カマゲッチョ先生のフィールド・トーク」を開催
11月14日◇ふるさと散歩「秋の色みーつけたの巻」トラスト地でキノコ汁を味わう
17日◇飯能商工観光課にて「飯能県民休養地構想」について2回目の懇談
20日◇ボランティア応援団主催「まちづくりボランティア・入門講座」に守る会活動を紹介
12月5日◇ふるさと散歩とワークショップ「木の実を拾ってリースを作ろうの巻」
その他に◇壱番市フリーマーケットに出店
　◇丸広前、市役所前等で「やませみ」の街頭配布及び戸別ポスティング配布
　◇会報「やませみ」発行時、会報とは別に、会員通信を発行
　◇毎月2回の定例会の他、編集会議や配送の作業も行っている

新春特集

このやまたちとつきあいたい

僕らを映しつづける里山

自由の森学園　理科教諭　盛口　満

去年の秋のことだ。僕の家の前の雑木林のへりに一本生えるカキの木の下で、僕は初めてそいつに会った。「そいつ」とは長年本の中だけで知っていた、カキノミタケというカキの種に生えるという変なキノコだ。このキノコ、埼玉のキノコを調べている人に聞いてみたら、まだ県内で見たことがない、という。つまりは珍しいキノコ、というわけだ。

里山を歩いていると、ごく普通の自然といわれるこの里山でも、時にこんな珍しいものに出会う。しかし最近、この普通と珍しいということは何を意味するのか、と考えてしまう。例えば、里山の代表的な動物、タヌキだ。僕は学校で生徒共々、交通事故死したタヌキの死体を、ここ十年程回収してきた。回収した死体は、解剖実習をした後、食性調査や骨格標本作りにも貢献してくれた。タヌキの事故数は年によって変動はあったものの（最高で92年の年間13頭）毎年秋になると、タヌキは拾えるもの、と相場は決まっていた。ところがここ数年異変が起きた。タヌキの事故死体を拾えなくなったのだ。これだけとると好ましいことにも思えるが、同時に学校周辺のタヌキの痕跡調査をしてみたら、こちらのほうも成果はさっぱりだった。普通であったはずのタヌキが今や珍しくなりつつある。

先のカキノミタケに話を戻す。このキノコは本来南方系のキノコだ。ということは、この珍しいキノコが、もし普通となるなら、それは温暖化との関連はないのかなどと気がかりにもなる。

今や自然は人間との関わりぬきには語れない。逆に言えば里山の自然は、今までの人間の歴史と、今まさに人間が行っていることを写し出す鏡であるといえる。僕たちがこれからどうなっていくか、それは誰にもわからない。だからこそ、身近かな環境の鏡としての里山の自然の意味が重要性を増している、と僕は思う。

天覧山・多峯主山を環境教育の場に

（財）埼玉県生態系保護協会
飯能名栗支部　支部長　黒住浩次

人間は自然の中で、自然の恵みを利用して暮らしています。この仕組みは、個人の衣食住から、大規模な消費社会に至るまで何等変わりありません。しかし二〇世紀の近代社会は、自然の恵みの供給スピードを遙かに越えた自然の恵みの使い過ぎで、様々な環境問題を引き起こしてしまいました。

これからの私たちの課題は、人間の暴走した自然利用を、いかに上手に押さえ、『持続可能』な『循環型社会』を造り出すかにあります。そのために、子供から大人まで、市民も行政も企業も、自然の仕組みを正しく理解し、行動しなければなりません。これには環境教育が不可欠であり、何よりも自然を残すことが大切です。

天覧山・多峯主山周辺で計画されている県民休養地は、この環境教育を視野に入れ、『循環』と『持続可能な自然利用』に配慮した、自然との共生を体験学習できる場所としての整備が望ましいと思います。具体的には、既存の自然林・湿地・休耕田・雑木林・針葉樹林を、それぞれ環境（空気・水・表土）・野生生物（遺伝子）・食料・エネルギー（薪炭）・資源（木材）の供給地として位置付け、来訪者が、私たちの暮らしと自然との関わりについて認識を深めることができるようにします。また近隣の小中学校での環境教育の実習地として、作業場所（休耕田・雑木林・植林地）も確保、整備します。こうすることで自然が残され、自然への認識が深まるのではないでしょうか。

「この土地は我々の物ではない、我々がこの土地のものなのだ。」二十一世紀に向け、このイヌイットの教えのような、人と自然との付き合い方が、今求められているのです。

飯能県民休養地計画への提言

埼玉県環境アドバイザー
（財）日本鳥類保護連盟理事
元飯能市環境審議会委員
駿河台大学教授　内田康夫

すでに「守る会」がくり返し主張しているように、天覧山・多峯主山地区の自然を守ろうとするなら、次の三項が完全に保証されなければならない。

（1）太郎坊切り崩しによる造成地建設は中止（切り崩せば水系は壊滅）

（2）日高団地へ至る道路建設は中止。

（3）保全地域内小・中学校の建設は中止（2・3とも一般交通の禁止）

もし、これら三項のすべてを保証されないなら、他のあらゆる施策は、自然保護に名を借りた開発行為に他ならず、その欺瞞性は厳しく追及されなければならない。

さらに、現在ホタル観察地として親しまれている能仁寺西側沼沢地は、所有者西武から、県が早急に買い取る交渉を開始しなければならない。

以上の条件を前提とした上で、人の立ち入りと施設設置のガイド・ラインを具体的に示す。

原則は全地域入山を許可する。ただし、以下の事項を遵守するものとする。

イ・入山目的は、自然環境そのものを対象とする行為に限定。自然物観察・鑑賞、俳句の吟行等。反対に、スポーツ・娯楽目的の行為はたとえ教育活動の一環であっても不許可とする。体力トレーニング、オリエンテーリング、野外料理、キャンプ、サバイバルゲーム等。

ロ・団体の入山は20名以下とし、適格のリーダーが指導。団体人数がそれを超過した時は班分けし、各班の行程差を20分以上に保つ。

ハ・フィールドマナー厳守の標示を各所に設置。採集厳禁、営巣箇所等への接近・写真撮影禁止、ゴミ・吸い殻等の持ち帰り、ラジカセやウォークマン禁止、昼食後点検等。

ニ・構築物は道標、説明板、山道保全や安全対策以外は禁止。

ホ・環境調査パトロールと定期的な清掃・環境管理の実施。

ヘ・稀少種の繁殖確認等、緊急必要事発生に際しては、当該地区への立ち入り禁止措置を実施。

自分が立木や岩のつもりに（木化け石化け）なれる人が、有資格者である。

私達の大好きな、天覧山・多峯主山。今この一帯を県民休養地にという計画があります。埼玉県ではこの計画に基づき、一昨年環境調査を行い、昨年度には基本構想をまとめました。今後の計画の進展には、飯能市の取り組み方が重要になり、地元での『県民休養地推進協議会』の設置が求められています。しかし担当する商工観光課では、今年度も具体的な対応がなく、協議会設置の予定すら立っていません。守る会では今後も市への働き掛けを続けて参りますが、まずは広く市民の間で議論が高まることが、県民休養地実現にむけての第一歩と考えています。そこで、守る会では、里山とのつながりの深い方々のご意見を伺いました。皆様のご意見もお聞かせください。

確かにつながっている、里山とわたし

飯能の天覧山・多峯主山にあたる山は、越生町では大高取山だと思います。市街地にも近く、小学校や公民館の裏山であり、駅から歩いて五、六分で登り口に着くことができます。子供達も一度はかならず遠足に訪れる山で、そう高くもなくて身近な山だけれど自然豊かで、植物も七五〇種ほど確認されています。このへんもそっくりですが、残念なことに開発に直面していることも共通なのです。大高取山は埼玉県農林部による「さくらの郷」が計画されています。

こんな大高取山へ、おもに動植物調査と写真撮影のために年間五〇回ほど通っていますが、まだまだ分からないことばかり、知らない場所だらけです。大高取山にはキツネ、タヌキ、アナグマ、イノシシ、テンなど、多くの動物がすんでいて、ふもとには谷津田が続き、典型的な里山の生態系を保っている場所です。

越生町緑とせせらぎを守る会
事務局　俵木栄一

そして、水源の山でもあります。現在僕は有機農業をしていますが、田んぼを始めたばかりのころ、水を引き入れて一変した田んぼが西日に輝くなかで、自分がどこにいるのか分からなくなるような瞬間がありました。そしてその時、確かに感じたことは、アジアのかたすみにいること、そして、お米を食べて生きている僕の体が、田んぼから水路を通して柳田川へ、そして水源の大高取山へとつながっているという思いでした。里山とは、なくてはならないものだという実感でした。

現代はお金さえあれば世界中から何でも集めてこれるために、そんな関係が見えなくなってしまい、本当に大切なものが分からなくなってしまったのだと思います。今、その関係はもとには戻らないかもしれませんが、動物や植物の事も考えながら里山との付き合い方を根本に立ち返って、もう一度組み立てなおさなければならない時代なのだと思います。